

島本町の水質

本町の水道水は現在3種類の浄水をブレンドして給水しております。1つはA系統と称しております比較的浅い層から汲み上げた地下水を浄水処理した水、次にB系統と称しております深い層から汲み上げた地下水を浄水処理した水、最後に平成10年度から導入された大阪府の高度浄水処理水の3種類を大藪浄水場でブレンドし給水しており、その割合はA系統が約40%、B系統が約50%、府営水が約10%となっております。

1. A系統の浄水処理施設の概要

A系統の浄水処理施設は、深井戸3本(水無瀬・国木原・鳥合)の井戸を水源とする良好な水質を維持し、施設としてはろ過設備を持たない塩素滅菌のみによる施設であります。このことから、濁度・色度等の水質変化に対応できないことから着水井に濁度計を設置し連続監視を行い、濁り等があれば直ちに放流といった処置で対応しているのが現状であります。

2. B系統の浄水処理施設の概要

B系統の浄水処理施設は、深井戸6本(大藪・天薬・溝田・馬渡・長田・堀込)の井戸を水源とし、水質は、A系統に比べ、鉄・マンガンが多く含まれており(A系統の約1000倍)、前塩素処理による鉄・マンガンの酸化、PAC(ポリ塩化アルミニウム)による凝集処理を必要とする施設であります。

3. 地下水と表流水の一般的特性

地下水

地下水は一般に良質で安全性も高いから、水道水源としては理想的であるが、しかし全部が安心なわけではなく、地下水に特に含まれやすい成分もあり、また河川に比べて、汚染は受けにくいですが汚染されると長期にわたり汚染が続く可能性が高く、大地が汚染されている場合は地下水でも危険な場合が多い。また、河川のような地表水と比較して二酸化炭素を多く溶解しているため、地層の成分を溶出し、無機質の溶解成分が多く含まれている。

河川水

河川の水は絶えず流動混合しており、湖沼水のように垂直的な水質変化がほとんどなく、また流下中に増加するプランクトンや溶解成分が少ないという特徴がある。次に水質の年間変動が大きい。たとえば平常時は、清流であっても、いったん大雨が降るとたちまち濁流となり、同時に溶解成分も激しく変化する。更に河川水は、汚染を受けやすい。

4. 給水栓における白い異物

町内給水栓において特に多い苦情として、白い異物があります。主に水道水中に含まれるミネラル分であり、特に問題はありますが、下記にミネラルに関連したご家庭でよく見られる現象を幾つか示します。

1. ヤカンやポットの周囲、底に白いものがつく。
2. 冷蔵庫の氷の中央部が白く、また、解けた後に白いものが残る。
3. 蛇口の周りに白いものができる。
4. アイロン、加湿器等の吹き出し口などが白くなる。